



▲白漆喰が壁や屋根目地を彩る姫路城。「白鷺城」と称される美しさ



株式会社山脇組
山脇一夫さん

**国宝姫路城を守る職人が語る
職人の技を支える、確かな道具**

世界文化遺産・国宝姫路城の漆喰壁や屋根目地の補修・修理を長年手掛けています。伝統的建築物の修復は「建築当時の姿を残す」ことを基本とし、材料や道具も可能な限り当時に近いものを使い、昔ながらの工法で施工しています。

左官では、素材や場所にに応じてさまざまな鏝を使い分けます。私たちが使う鏝の多くは三木産で、特に鍛造の鏝は現在ほぼ三木でしか作られていません。強度や性能に加え、仕上が

にも違いがあり、この鏝でなければできない作業もあります。

鏝は、使い続けるうちに反りや曲がりが出るため、三木の職人さんに修理をお願いしています。道具を作る人と使う人、双方の技術があつてこそ伝統建築の修復は成り立っています。

和風建築が減る今、日本の建築の美しさは職人の技術だけでなく、それを支える道具によって守られていることを知ってもらえたら嬉しいです。

**国宝薬師寺の修理に挑んだ職人が語る
良い道具は、仕事に余裕を生む**

1300年前に創建された薬師寺。その中でも東塔は創建当時の姿を残す唯一の建物です。平成21年から12年にわたり行われた全面解体修理で、私は左官の頭領を務めました。

伝統建築に携わる上で大切なのは、建物の歴史やそこに込められた人々の思いを理解し、敬意をもって向き合うことです。

鏝は、手に馴染み、疲れにくいことが重要です。良い道具を使うと仕事に余裕が生まれ、その余裕が安定した仕上がりにつながります。性能の良さだけでなく、使う人を支えてくれる存在です。現代において、左官鏝の注や修理に伝えてくれる鍛冶職人がいるのは三木市ぐらいではないでしょうか。



▲度重なる火災や戦火を免れ、創建当時の姿を唯一今に伝える薬師寺東塔
(写真右側 奈良県奈良市)

伝統技術は減りつつありますが、大切なものを未来へつなごうとする人たちがいる。その思いこそが、日本の良きものを次世代へ受け継ぐ力になると信じています。



宮奥左官工業
宮奥淳司さん

現代の名工に聞く 三木金物の魅力

国宝をはじめ、数々の文化遺産の保存修理に携わってきた職人たち。長年、仕事を共にしてきた道具の一つが三木金物です。確かな技を持つ職人は、なぜ三木金物を選び、使い続けてきたのか。プロフェッショナルの視点から三木金物の魅力に迫ります。

左官ってなに？

左官とは、鏝を使って壁や床などを塗り、仕上げる仕事のこと。塗る場所や材料、仕上げ方によって職人はさまざまな種類の鏝を用途に応じて使い分けています。

こて鏝ってほぼ三木産！

鉄をたたいて形を整える「鍛造」の鏝は、そのほとんどが三木市で作られています。



皆さんは、「三木金物」と聞いてどんなものを思い浮かべますか。

自分にはあまり縁がないと思う人も多いかもしれません。ところが、三木金物は国宝の保存修理や世界から注目されるものづくりの現場で活躍しています。

さらに、仕事の現場だけではなく、園芸やDIYなどで三木金物を愛用する人もいます。

今回の特集では、国宝の保存修理に携わる職人など、それぞれの利用者の声を通して、三木金物が選ばれ続ける理由とその魅力に迫ります。

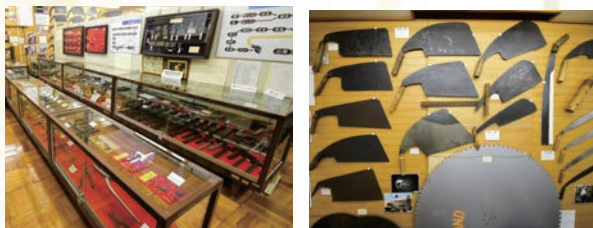
こんなところにも 三木金物

～時代を、地域を超えて～

園(市)商工振興課 かなもの振興係

金物に触れる

三木金物に関わる人々が交流するイベントや、その歴史や文化を学べる場を紹介します。金物に親しんできた人はもちろん、これまで触れる機会が少なかった人も、三木金物の奥深い魅力を存分に味わってみませんか。



三木金物資料館

1976年に開館した金物資料館は、三木に伝わる金物の資料や道具を公開しています。展示されている金物の数は約3,500点。愛好家をはじめ、DIYを趣味とする方などを中心に県外からも多くの来館者が訪れています。

【休館日】月曜、祝日の翌日(土日の場合は開館)

第40回 特別企画展 播州三木打刃物 伝統工芸士展

【期間】10月27日(木)～12月6日(日)

高度な技術を持つ11名の伝統工芸士にスポットをあて、個々の経歴や職人としての素顔を知ることができるパネル・製品展示を実施。

☎ 金物資料館(上の丸町5-43)
☎83-1780

表紙を飾る11人の伝統工芸士



(敬称略)

古式鍛錬

古来の伝統技法を継承するため、三木金物古式鍛錬技術保存会の5部会(鋸・鑿・鉋・鑢・小刀)のメンバーが交代で公開実演を行っています。鍛造に使う炭を制御する轡ふしこを使い、その御神火で鋼を鍛える光景を間近で見学できます。

【場所】古式鍛錬場(金物資料館横)

☎ 三木工業協同組合
☎82-3154



▲詳細はこちら



体験教室

「ひょうごフィールドパビリオン」に登録されている三木金物関連の体験教室を紹介します。

- ・金物のまち三木で包丁職人から習う鍛冶屋体験
- ・刃を磨き、自らを磨く。
- 金物のまちの包丁職人直伝包丁研ぎ体験
- ・全国唯一！伝統的折り畳み式ナイフ「肥後守 Higonokami」の製造現場潜入ツアー
- ・最高の鯉節をあなたの手で！！(鯉節削り体験)
- ・心を刃に、想いを形に。～プロ仕様の「彫刻刀」で作り出す、オンリーワンの木のスプーン体験～



▲詳細はこちら

☎ (市) 縁結び課 地方創生係

三木金物まつり

11月7日(土)、8日(日)開催！
詳細は、30・31ページで確認してください。



▲扉を開けば、飛び出す絵本のように空間が広がる小林木工のオリジナルブランド「CoffreK」の家具



株式会社小林木工
小林朋弘さん(写真中央)

三木だからできる家具づくり
三木で家具を製造する私たちに
とって、鉋や鑿などの三木金物は欠か
せない存在です。特に木の質感をそ
のまま生かす家具では、最後の仕上げ
が出来栄を左右します。職人は木
のわずかな膨らみやへこみ、木目を見
極めながら、削る方向を変え、道具を
使い分けます。機械では均一に削っ
てしまうところを、木の特性に合わせ
て仕上げることで手触りなどにも違
いが生まれます。三木金物の良さは、
道具の品質だけではありません。三
木には、道具を作る職人が身近にい

「もう少しここを削りたい」「角度を
変えたい」と相談すれば、用途に合わ
せて応えてもらえます。道具を作る
職人と、それを使う職人が直接相談し
合える環境は、金物の産地ならではの
強みです。
昔から三木には、全国の大工が金物
を求めて訪れ、道具をきつかけに職人
同士の縁が生まれてきました。一つ
の道具が人と人、技と技をつないでい
く。そんな三木金物の強みを家具づ
くりにも生かし、新たな価値を世界に
挑戦する自社ブランド「CoffreK」
で生み出していこうと思っています。

ものづくりの楽しさを 鍛冶屋のまちから



▲安森さんが制作した木製香炉

県立三木山森林公園の森のクラフ
ト館で、利用者に提供する木材を仕立
てる傍ら、家具やおもちゃを作ってい
ます。木工教室で講師をすることも
あり、子どもたちと一緒に木に触れる
時間も大切にしています。
もともとは家具職人で、昔から道具
にはこだわりがありました。気に入っ
た刃物を集めているうちに、身の回り
には三木金物が増えていきました。
香川県で仕事をしていた20代の頃か
ら三木金物まつりに通い、鍛冶屋さん
との交流を重ねてきました。

良い道具ほど、重要な加工の場面で
違いを感じます。例えば、三木の鉋は
食いつきがよく、木を薄く削ることが
できます。その性能に、何度も助けら
れてきました。これまで、手工具を通
して感じてきた、ものづくりの楽し
さ。その魅力を鍛冶屋のまちからもつ
と多くの人へ伝えていきたいと思っ
ています。



▲下のひもを引くと、鳥が上へと
動く仕掛けのおもちゃ

県立三木山森林公園
安森弘昌さん

ものづくりの達人に聞く 三木金物の魅力

木の性質を見極め、求める仕上がりへと近づけていく木工の世界。そこには、技術だけでなく、美しい仕上がりを支える道具の存在があります。ものづくりの達人が三木金物を選ぶ理由とは。ものづくりの現場で感じる、三木金物ならではの良さを聞きました。